

	実 態 と 課 題	授 業 改 善 策
国語	- 問題や文章を理解するための語彙が少ない。 - 漢字学習は意欲的に取り組むが、文章を書くときに習った漢字を使っておらず、漢字の定着が不十分である。 - 物語は内容の読み取りはおおよそできるが、説明文の読み取りや要点をまとめることが難しい。 - 作文は、経験したことの中から書くことは見つけられるが、全体の構成を考えたり内容を膨らませたりすることは難しい。	- 単元の始めに意味調べを行い、語彙の数を増やすとともに、その意味が理解できるようにする。 - 学習した漢字や言葉を文章の中で活用できるよう、漢字等の家庭学習を繰り返す。国語辞典や漢字辞典をさらに活用し、語彙力を高める。 - 説明的文章では、大切なところや事柄の順序を考えながら内容を読み取らせ、まとめる練習をする。 - 書き始める前に「始・中・終」の大まかな文章構成ができるような構成メモを用意し、書くことの見通しをもたせるようにする。
社会	- 社会科見学や体験学習を通して、社会科の学習に興味をもって取り組んでいる児童が多い。 - グラフや表等の資料の読み取り方に慣れていないため、とまどう児童が多い。 - 新たに学ぶ社会事象等が多く、受け身の学習になりがちである。	- 体験学習を計画的に取り入れ、興味・関心を高める。 - 資料読み取りの仕方を丁寧に指導し、練習問題などで、習熟を図る。 - まとめの学習として自分で課題設定した学習新聞や感想を書く活動を取り入れ、理解していることを確認する。
算数	- 計算に関する既習事項の定着状況の差が大きく、わり算の学習や大きな数のかけ算の学習においては正しく計算できない児童が多い。 - 数量関係を式に表したり、計算の法則を活用して計算したりすることに関して苦手な児童が多い。 - 作図に意欲的に取り組んではいるが、コンパスや三角定規、分度器を正しく理解し使用できていない児童もいる。 - データの分類整理の学習では、表や折れ線グラフを正しく読み取ったり正しく作成したりできる児童が多い。 - 数学的な見方を働かせることはできる児童が多いが、数学的な考え方を働かせることが難しい児童が多い。	- 授業では学習の到達度を個別に確認しながら学習を進める。またプリントやミライシードで、繰り返し練習する。 - 既習の基礎的な学習は、朝学習などで復習し習熟を図る。 - 作図の技能向上のため、模様作りなどを行う。 - 問題から適切に意味の読み取り、筋道を立てて考える活動を増やすことで、思考方法を身に付けさせていく。
理科	- 既習事項や新たな知識の定着が不十分な児童が多い。 - 理科の問題解決の流れはかなり定着しており、自分の考えを適切に表現できる児童が増えている。 - 観察・実験の結果と考察、結論の区別ができず、予想・仮説に正対した考察や、問題に正対した結論を考えることが難しい児童が多い。 - 意欲的に観察・実験に取り組んでいるが、観察・実験以外の場面への意欲が高いとは言えない。 - 理科室の使い方や実験器具の使い方を学び、用具を安全に正しく使えるようになっている。	- 単元の導入では既習事項を一つずつ確認し、学習を通して得られた知識と身近な科学的事象を結びつけさせたり、視聴覚教材などを取り入れたりして、知識の定着を図る。 - 各場面において何を記述するのかをこまめに指導し、各場面で書き方の話形を提示する。 - 問題解決の流れ全体が科学であると指導をし、予想・仮説を確かめられた満足感や結論を導出できた達成感を感じることができるようにする。
音楽	- 歌うことを楽しんで意欲的に歌っている。響きのある美しい声で歌おうとする児童が増えてきている。 - リコーダーや鍵盤ハーモニカの技術面で、個人差が大きくなってきている。 - 音楽を聴いて、豊かに情景を想像することはできるが、それを音楽の要素と結びつけて捉えるまでには至らない。	- 歌声を遠くに響かせる方法を具体的に示し、歌唱技能を高める。 - 簡単な旋律で、息の使い方・タンギング・運指などの基本を意識させ、きれいな音で演奏できる体験を積ませる。 - 児童の発言を整理して板書するなどして、感じ取ったことと音楽との関係を全体で共有できる場をつくる。 - 協働的な学習や個別最適な学習をおこなえるよう、学習の形態を工夫する。
図工	- 造形活動に意欲的な児童が多いが、発想が広がらず既成のキャラクターを安易にまねてしまう児童もいる。また自分のゴールを早めに決めてしまい、制作を切り上げてしまうことがある。 - たくさんの用具を同時に使う場面が出てくるが、技能に個人差がある。 - 友達作品のよさを積極的に発表したり、アイディアを共有したりすることを楽しむ児童が多い	- 表現の工夫のきっかけとなるような掲示物や工作材料コーナーを活用し、活動が停滞している児童への適切な指導や支援を工夫する。 - 活動の流れを視覚的に示し、児童が見通しをもって活動できるように配慮する。また道具の扱いについては個別に援助する。 - 制作途中に鑑賞の時間をとったり、道具を共有することで発生する自然な関わりを多く取り入れ、よさを具体的に伝えたり、自分の作品に生かしたりできるよう助言する。
体育	- 体を動かすことが好きな児童が多く、どの運動にも意欲的に取り組んでいる。 「楽しく運動する」ために規則を工夫したり考えたことを伝えたりすることに課題がある。児童による差が大きい。 - 体力テストの結果から、50m 走の記録が全国平均より低い	- 慣れるまでこちらで提示した物の中から選べるようにする。また、タブレットを活用し、自分の考えを交流しやすくする。 - 腕の振り方やスタートの仕方について指導したり、走る機会を増やしたりしていく。

